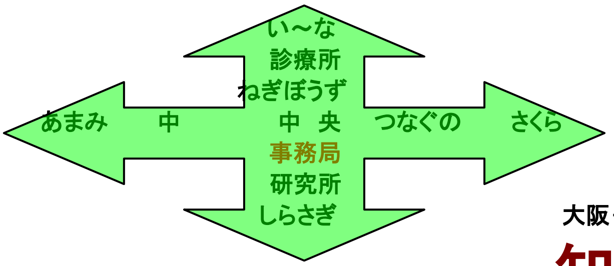


大阪＋知的障害＋地域＋おもろい＝創造

知の知の知の知

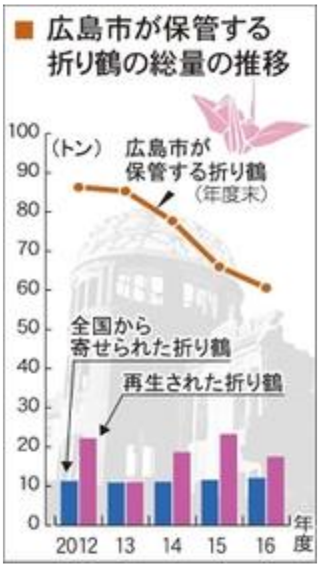
社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会　社会政策研究所情報誌通算 3820 号 2017.8.6 発行

==

平和の折り鶴　扇や絵はがきに再生し祈りつなぐ　神戸新聞　2017 年８月６日

「原爆の子の像」前のブースに折り鶴をささげる女の子＝平和記念公園

「原爆の子の像」前のブースに折り鶴をささげる女の子＝平和記念公園



きょう６日、７２回目の「原爆の日」を迎える広島。平和への祈りが宿った折り鶴は国内外から途絶えることなく寄せられ、その数は年間約１千万羽（約１０トン）にも上る。広島市はすべてを市内の遊休施設で保管しており、２０１２年度には再生事業もスタート。色とりどりの折り鶴は、平和を願う絵はがき、扇などに姿を変え、記憶の伝承を静かに支えている。（長谷部崇）

広島市中区、平和記念公園の「原爆の子の像」。その前には、千羽鶴を飾るブースが九つある。先月下旬に訪ねた際、豊岡市立中筋小、宝塚市立山手台小、明石市立魚住小、西宮市立甲東小など、兵庫県内の学校から寄せられたものもたくさん目に付いた。

広島市平和推進課によると、修学旅行生が持参するケースが圧倒的に多いが、最近は広島で折り方を教わり、１羽や２羽をささげていく外国人旅行者も目立つという。同市はかつて、これらの折り鶴を一定期間展示した後で順次回収・焼却していたが、０２年度から方針を転換。市所有の施設で全量保管するようになり、「原爆の子の像」前の各ブースにも雨風を防ぐカバーを設置した。

保管量は増え続け、ピーク時には計９７・４トンに。一方、１２年度から「昇華」と名付けて折り鶴の再生事業を開始。古いものから市が許可した企業や団体に譲るようになり、毎年、持ち込み量を上回るペースで再生されている＝グラフ。同課は「折り鶴が形を変えて別の人の手に渡ることで、平和への思いがつながっていけば」と狙いを説明する。

現在、ＪＲ広島駅のコンコースで壁一面に展示されている色鮮やかな扇「ＦＡＮＯ（ファーノ）」は、折り鶴の再生紙を利用してデザインされた商品。広島市内の卒園・卒業証書も、昨年度から折り鶴の再生紙で作られるようになった。

市内約３０の福祉作業所も連携してリサイクルに取り組む。千羽鶴の留め金や糸を外して１枚ずつ紙を広げ、色などで分類。製紙工場で紫や青、黄など元の色のかけらをちりばめたような再生紙に生まれ変わる。
障害者たちの制作したコースターや缶バッジ、しおりなどは、平和記念公園周辺のショップや一般社団法人「千羽鶴未来プロジェクト」のホームページで販売され、外国人観光客にも人気だ。広島平和記念資料館は、この再生紙でできた絵はがきを１枚ずつ来館者に配布。６日夜に原爆ドーム周辺である灯籠流しでも使われるという。
【広島と折り鶴】
２歳の時に広島で被爆し、１０年後に白血病と診断された佐々木禎子さん（享年１２）が、健康の回復を願って薬の包み紙などで鶴を折り続けた。佐々木さんの死から２年半後の１９５８年５月、同級生らの呼びかけで鶴を掲げ持つ少女のブロンズ像「原爆の子の像」が完成。平和を願い、国内外から多くの折り鶴が広島に寄せられるようになった。２０１６年５月、米国のオバマ前大統領が自ら折った鶴４羽を広島市に寄贈。現在、広島平和記念資料館で２羽を公開し、別の１羽は今年６月からハンガリーやモンテネグロの原爆展で展示されている。

障害者アート支援　１４年度から連携　金沢美大×東京芸大　施設研修、講演…若手芸術家の育成目指す　／石川
毎日新聞　2017年８月５日

プロジェクトの任命状を手に意気込む金沢美術工芸大の学生たち＝金沢市小立野５の同大で、道岡美波撮影

２０２０年の東京五輪・パラリンピックに向けて障害者スポーツが盛り上がる中、文化の振興にも注目が集まっている。金沢美術工芸大（金沢市小立野５）は東京芸術大（東京都）と連携して１４年度から、障害のある人の芸術活動を支援するプロジェクトに取り組んでいる。
文化庁の委託事業「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の一環で、障害者の芸術活動を支える若手芸術家の育成を目指す。これまでに参加した学生たちは、特別支援教育や障害者アートの専門家による講演▽障害者が芸術活動を実践している施設での研修▽福祉施設や特別支援学校での作品作りのワークショップ－－などを通じ、経験を積んだ。今年も金沢美大からは、油絵や陶芸などを専攻する学生５人がプロジェクトに参加する。
３日には同大で任命式があった。３年の山崎愛美さん（２２）と大学院２年の佐藤文さん（２４）は、福祉施設で知的障害のある利用者と一緒に、粘土を使った制作に取り組んだ経験があり、応募した。山崎さんは「興味を持つポイントがみんなバラバラで、想像通りではなかった。一緒に芸術をやってみたいと思った」、佐藤さんは「できた作品がとても面白かった。どうやって交流していけばいいのか知りたい」と話す。
また、大学院１年の青山望美さん（２３）は、正規の美術教育を受けていない人による芸術「アウトサイダーアート」に関心があり、参加を決めた。「障害者という言葉で線引きをせず、相手の興味関心を引き出して、心の底から楽しめる活動を支援したい」と意気込んだ。【道岡美波】

「医療的ケア児」支援強化　県、新たな施設参入促す　たん吸引や経管栄養
茨城新聞　2017年８月６日
日常的にたん吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な子どもたちの支援強化を狙いに、県は本年度、協議会を発足させるなどして対策に乗り出す。支援の軸となる通所・短期入

所施設が不足しているため、県は研修会を開いて新たな施設の参入を促すほか、県庁内に協議会を設けて情報共有を図る。本年度改定される新いばらき障害者プランや県保健医療計画に「医療的ケア児」に関する記述を盛り込み、支援を加速させる方針。

「こんにちは、きょうもお願いします」。午前9時半、医療的ケア児の支援施設の一つである多機能型児童発達支援所「ぽぴい」=水戸市=に子どもを連れた母親らが次々と訪れる。

水戸市の白石るり子さん(50)の長女樹歩さん(18)は2年ほど前から、夏休み期間などを中心に施設を利用している。樹歩さんは運動機能障害と知的障害があり、ほぼ寝たきりの状態。胃に栄養を送る経管栄養のケアを必要とする。るり子さんは「家の中だけで見ないといけないと考えた時期もあったが、外の世界に触れられる場所が増えて、子どももうれしそう」と話す。現在は別の短期入所施設にも通い、樹歩さんを施設に預けている間、るり子さんは買い物や自宅の掃除をこなす。「家事などに集中できる貴重な時間」というが、施設の数が少ないことから予約が取れないことも多く、「予約合戦になっている」と指摘する。

■受け入れ施設

県内の重症心身障害児を受け入れる通所支援施設は8市町の12施設、医療型短期入所施設は成人向けを合わせても8市町村の9施設にとどまる。県は本年度、医療的ケア児の支援事業に135万円を予算化した。医療機関に委託して、市町村の担当者や福祉事業者などを対象にした研修会を開く。医療的ケア児に対する理解を深め、新規参入につなげるのが狙い。現在、研修内容などについて調整している。

また、県庁内の関係各部署で連携を図るため、協議会を設ける。保育や教育などの各分野を担当する部署と情報を共有することによって、効果的な対策や対応につなげる。県障害福祉課の担当者は「支援の隙間に入りこんでいる人たちを支援の対象とするなど、新たな対策につながるようにしたい」としている。

■最低1カ所

国は2020年度までに、主に重症心身障害児を受け入れる通所施設を各市町村に少なくとも1カ所以上確保する目標を定めている。県は国の方針や、医療的ケア児の保護者からの声を受けて、通所施設などを必要とする県内の重症心身障害児の数などを、市町村を通じて調べている。

県は本年度、来年度から5年間の医療・福祉の指針となる「新いばらき障害者プラン」や「県保健医療計画」を改定する予定で、「医療的ケア児」に関する対策を盛り込み、調査結果を対策に反映させる方針。(成田愛)

【相模原殺傷】犠牲者の匿名で安否わからず　障害者を同等に見ないうわべの優しさが事件うむ　産経新聞　2017年８月５日

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者１９人を刺殺するなどして殺人罪などで起訴された元職員、植松聖被告（２７）が産経新聞に宛てた手紙。「最低限度の自立ができない人間を支援することは自然の法則に反する」とつづるなど、差別的な持論を展開した。

「突然ふっと、ね」。知的障害がある小西勉さんは自宅に近い横浜市内の駅のホームで、向かってくる電車の方に吸い込まれるように進むときがある。「ここ２、３年、何回も。今だってあります」。途中で「ああ」と思い、足が止まる。相模原殺傷事件の植松聖（さとし）被告（２７）は「障害者は不幸しかつくらない」と主張。ネット上には賛同する書き込みもあった。小西さんは「悲しいけど、周りにもそういう人はいるし」とポツリ。“自殺”しそうになる理由を一つには絞れないが、社会の空気は大きな要因だという。

発生から１年がたった相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」殺傷事件で、警察は殺害された１９～７０歳の入所者１９人の氏名を公表していない。「遺族の希望」が理由だ。

■無事かが不明

小西さんは、事件現場となった施設に何度も足を運び、献花した。友人が入所していたという仲間は「名前が出ないから、無事かどうか分からない」と嘆いた。「自分なら公表してほしい」。そう語り合った。

昨年９月、横浜市で開かれた知的障害の当事者団体「ピープルファースト」の全国大会。小西さんは実行委員長を務めた。参加者からは「自分で決めるという当たり前のことを奪われてきた」「『特別支援学級に行け』『施設に行け』と、親や行政に人生を決められる」といった声が出た。

皆でまとめたメッセージには、こんな文言が。「なぜ仲間が施設に集められているのですか。みんな、私たちの気持ちを、夢をちゃんと知ってくれていますか。私たちにつながる人たちのうわべのやさしさが（事件の）犯人に間違いを起こさせたのではないですか」

■自分で決めたい

小西さんは今年３月、京都市で開かれたシンポジウムでも訴えた。「自分の生きる価値も、幸せも、不幸せも、自分にしか決められない」

事件の後、街頭でビラ配りを続けている脊髄性筋萎縮症の石地かおるさんは最近、駅や公共施設の看板などに、あるフレーズが増えたと感じている。「障害者に思いやりと優しさを」。目にするたび、心がざわつくという。

レストランに入ったとき、店員が自分の方を見ることなく介助者に注文を聞く。電車に乗るとき、駅員は自分ではなく介助者に行き先を聞く。まるでその場にいないかのように扱われる。「同等に見ないままの『優しさ』では何も変わらない」

■ずっと分けられ

地元の小学校の中にある障害者だけのクラスに通った。普通学級に友だちも多く、何度も「みんなといたい」と訴えたが駄目だった。理由を説明された記憶はない。

中学からは親の意向で障害者だけの学校へ。ずっと分けられ、互いに出合わないまま生きている。それが「障害者が見えていない」ことにつながっていると考えている。

「優しさ」という、人間にとって大切な気持ちすら、通い合わない。その状況は、障害者運動が本格化し始めた１９７０年ごろと変わっていないのではないか。石地さんはそう感じているという。

■相模原殺傷事件　平成２８年７月２６日未明、相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者１９人が刃物で刺され死亡、職員２人を含む２６人が負傷した。県警に逮捕された元施設職員、植松聖被告は「意思疎通できない人たちを刺した」と供述。横浜地検は５カ月間の鑑定留置を経て、刑事責任能力が問えるとして今年２月、殺人や殺人未遂など６つの罪で起訴した。最大の争点は責任能力の有無や程度となる見込みで、公判の長期化は不可避との見方が出ている。

温泉旅館がサ高住開設　温泉入浴送迎サービスも　那須塩原　下野新聞　2017年８月５日

９月開設に向け改修が行われているサ高住「自在の森」＝那須塩原市

那須高原温泉の旅館「自在荘」（那須町湯本、小貫真吾（おぬきしんご）社長）は、福祉事業分野を強化する。これまでの居宅介護支援事業所の運営に加え、9月には那須塩原市埼玉にサービス付き高齢者住宅（サ高住）「自在の森」を開設する。同旅館の温泉に入浴するための送迎も行う予定で、旅館経営を生かしたサービス提供していく。同旅館や県によると、温泉旅館によるサ高住の運営は県内では珍しい。

同旅館（客室 15 室、55 人収容）は、高齢者や、障害のある客にも丁寧な対応をしており、地元リピーターが多いという。また、都会から

別荘地に移住してきた高齢者の日帰り入浴や食事にも対応してきた。

障害者、靴磨きで就労　職人技を出張サービス　　　　　　京都新聞　2017 年８月５日

靴磨きの出張サービスを行う「革靴をはいた猫」のメンバーたち。障害者と学生スタッフがともに働いている（京都市伏見区・区役所）

龍谷大を今春卒業した男性が、障害者の就労を支援しようと、靴磨きの出張サービスを行う会社を京都市伏見区で立ち上げた。精神障害や知的障害のある若者が技能を身に付け、職人として安定した収入を得られるようにするのが目標だ。依頼も徐々に入り始めており、青年社長は「仕事を通じて障害者の自立に結びつけたい」と意気込んでいる。

株式会社「革靴をはいた猫」の社長を務める魚見航大さん（２３）。龍谷大で障害者との共同活動に取り組む学生団体に所属し、深草キャンパス（同区）のカフェで知的障害者や精神障害者と一緒に働いた。活動を通じて「障害者がもっと活躍できる場所をつくりたい」との思いを強くした。

カフェの運営に携わっていた社会福祉法人「向陵会」（向日市）の職員に相談したところ、「靴磨きはどうか」と勧められた。大阪には靴磨きの専門店があり、高い技術で評判を集めていることを知った。障害者にとって精神的な負担が少なく、技能も磨きやすいと考えた。まずは自らがノウハウを身に着けようと、大阪の専門店で１年間修業。龍谷大の教員らから資金支援を得て、卒業前日の今年３月に起業した。

メンバーは、伏見区にある向陵会の就労移行支援施設を利用する知的障害者と精神障害者の計５人。いずれも２０代の若者だ。魚見さんの指導で、ワックスやウイスキーを駆使し、靴の表面を鏡のように磨き上げる技術を習得。龍谷大の学生スタッフとともに生命保険会社や金融機関、伏見区役所などに出向き、靴磨き職人として働いている。

水田奈那さん（２１）＝向日市＝は「靴をぴかぴかにするのがやりがい」と笑顔で話し、藤井琢裕さん（２６）＝同市＝も「お客に『すごい』と言ってもらえるとうれしい。この仕事を続けたい」と意欲を語る。魚見さんは「靴磨きの仕事を通し、与えられる存在から、与え、分かち合う存在に成長してもらいたい」と期待している。

料金は１足千円。問い合わせは同社０７５（９３５）０１６０へ。

伊那市、ふるさと納税返礼品に「墓地見守り」　　　　信濃毎日新聞　2017 年８月５日

伊那市が、ふるさと納税の返礼品に墓地の見守りサービスを加えた。市社会福祉協議会が就労支援している生活困窮者や障害者が除草や墓石の拭き掃除を担う。今から申し込んでもお盆には間に合わないが、市は９月の彼岸に向けて利用を呼び掛けている。サービスは３人で墓の周りの清掃、墓石の水拭きをして生花を供える。清掃前後の写真を添えた作業報告書を寄付者に送る。２万円寄付した人には１回、６万円寄付した人には３回実施する。伊那市は返礼品の家電製品などが人気で、２０１６年度の寄付総額が全国の自治体で２番目に多い７２億５００万円だった。その後、総務省の要請もあって家電製品などの取り扱いをやめている。市企画政策課は、見守りサービスを返礼品に加えたことについて、墓地の手入れを通じて故郷の応援や障害者らの就労支援につながる面を評価したと説明。４日時点でまだ申し込みはないが、「秋の彼岸には間に合うので利用してほしい」とＰＲしている。７月中旬に始めた見守りサービスは、ふるさと納税の手続きをしなくても、市社協に申し込めば除草や墓石の掃除が１回４千円、供花は追加費用２千円で利用できる。高齢者から、体力に不安があり墓の手入れができないとの声が以前から寄せられていたという。生活困窮者や障害者の就労に向けた訓練にもなると考えた―としている。

教育現場での ICT 活用方法を提案　関西教育 ICT 展　　大阪日日新聞　2017 年８月４日
　教育現場での情報通信技術（ＩＣＴ）の活用方法を提案する「第２回関西教育ＩＣＴ展」（日本教育情報化振興会など主催）が３日、大阪市住之江区のインテックス大阪で始まった。約１００社が出展して機器やソフトを紹介。２０２０年度から小学校で必修化されるプログラミング教育のコーナーも設置され、来場者の関心を集めている。４日まで。

プログラミング関連の教材コーナーで熱心にやりとりする教育関係者と企業担当者ら＝３日午後、大阪市住之江区のインテックス大阪

　プログラミング教育の関連では、ブロックを組み立てて動かす教材をはじめ、画面上でイラストを動かしたりする教材が展示され、来場者は学校での活用方法について担当者と熱心にやりとりしていた。
　会場では、ＩＣＴの環境整備を図りたい教育委員会や学校向けに、推進計画の策定や予算要求などの手法を相談できるコーナーも開設。教材や機器だけでなく、導入方法まで啓発して需要に応えていく構えだ。
　期間中は約４０のセミナーを展開。主催者は「ＩＣＴ導入について理解を深めてもらい、子どもたちによりよい教育を提供するお手伝いができれば」と来場を呼び掛けている。

バーチャルアナ提供開始　ソニー開発、えひめ国体にも一役　産経新聞　2017 年８月６日
　ソニーと共同通信デジタル（ＫＤ）は、バーチャル女子アナウンサーが音声合成でニュースや天気予報を読み上げる「アバターエージェントサービス」の提供を開始したと発表した。ニュース原稿などの文字情報を、音声合成エンジンによって自然な発話に変換し、バーチャルアナウンサー「沢村碧」が読み上げる。
　ソニーが開発し、ＫＤが販売を担当。昨年から今年にかけて東京・渋谷の商業ビルにあるデジタルサイネージ（電子看板）のほか、静岡放送（静岡市）のテレビ番組や、南海放送（松山市）のラジオ番組で実証実験を実施。愛媛県で９～10 月に開催される国民体育大会と全国障害者スポーツ大会で、各会場の情報を発信する応援アプリやケーブルテレビなどで登場する予定。同県の大会実行委員会と愛媛新聞社（松山市）が連携する情報発信で一役買うことになる。このサービスは、今年６月、国内の優れたデジタルサイネージの作品に贈られる「デジタルサイネージアワード 2017」の技術・ハードウエア部門で入賞した。

高野山夏季大学　　京都国立博物館館長の佐々木さんら講演　　毎日新聞 2017 年８月５日
　和歌山県高野町で開かれている第９３回高野山夏季大学（毎日新聞社、総本山金剛峯寺主催）は２日目の５日、各界の４人が講師として登壇した。日本パラリンピック委員会副委員長の櫻井誠一さんは、２０２０年の東京パラリンピックに向けて「人の多様性を認め、障害者が排除されない共生社会を目指し、レガシー（遺産）として残すことが必要」と訴えた。続いて京都国立博物館館長の佐々木丞平さんが講演。文化財保存をめぐる歴史を紹介した上で、１０月から同館で始まる特別展覧会「国宝」（毎日新聞社など主催）に触れて「国宝が奇跡のような形で残されてきたと理解してもらえると思う」と語った。
　また、ＷＢＣ（ワールド・ベースボール・クラシック）２０１７侍ジャパン代表監督の小久保裕紀さんは「もう一度しろと言われても、同じことしかできないほどやりきった」とＷＢＣでの戦いを回顧した。声優や演劇など幅広く活躍する女優の戸田恵子さんは、自らを「女優百貨店」と表現。声優として担当するアニメのアンパンマン役について「子供

たちに元気になってもらいたくて、３０年続けてきた」と話した。【須藤唯哉】

<家族のこと話そう>好きに活動　妻に感謝　社会福祉学者・結城康博さん

東京新聞　2017年８月６日

父（７５）は病院の放射線技師、母（７３）は看護師でした。父は今で言うイクメン。料理や洗濯を母より上手にこなし、私や弟の保育園の送り迎えもしてくれました。

父は新聞を読んだり、政治番組を見たりするのが好き。母は当時、看護師の地位向上の運動をしていました。だから、家では医療や福祉制度の堅い話ばかり。私が社会保障を専門に研究するようになったのも、このころの影響が大きいのかもしれませんね。

このような環境で理屈っぽく育ったからか、小学校では授業中に先生の揚げ足を取るような質問をしたり、自分でも変わり者だったと思います。授業や勉強はつまらなくて、成績もクラスの下の方でした。でも、両親から「勉強しろ」と怒られたことはありませんでした。

本気で勉強し始めたのは中学二年の後半。校内暴力がピークだったころで、優秀な高校ならその影響を避けられるのではないかと思ったからです。高校では格差や貧困、高齢化などの問題を学び、大学で福祉を専攻しようと決めました。でも、大学卒業後は就職せず、半年間、交通整理のアルバイトをしました。当時は時給が高く、フリーターでも十分食べていけました。

でもバブルがはじけたのを機に、公務員試験を受け、二十四歳の時、東京都の区の職員になりました。北区役所に勤めた後、新宿区に異動し、ケアマネジャーとして、地域包括支援センターなどでも働きました。

高齢者らが自宅で誰にもみとられずに亡くなる「孤独死」の問題に関心を持ったのもこのころ。地域に合った見守りの仕組みを行政と警察、地域住民が連携してつくることで、命を救える上、遺体の腐敗が進む前に発見できます。

今、私が大学での研究や教育のほか、新聞やテレビなどに出たり、全国で講演したりと、好き勝手に活動できるのは、妻（４４）が家庭を守ってくれているからこそです。

妻は結婚する前は看護師で、専業主婦を望んでいました。私は小学生のころ、当時はまだ珍しかった学童保育に通っていましたが、なかなかなじめなかった。その経験から、保育園や学童保育に子どもを長時間預けるのは望ましくないのではないかと思っていたので、子育てなどで妻とは考えが似ています。しんが強く、教育熱心で、高校一年の長男と中学二年の長女の世話も一手にやってくれています。

私は多くの働き盛りの男性と同じく、家事は妻任せで、地縁も薄いです。妻に熟年離婚されたら、孤独死につながりそうなパターン。だからこそ、多くの人がそうならないよう、地道に孤独死しない方法を訴えていきたいです。

聞き手・出口有紀／写真・加藤晃

<ゆうき・やすひろ>　１９６９年、宇都宮市生まれ。淑徳大社会福祉学部卒業後、９４～２００７年まで東京都北区、新宿区の職員として勤務する傍ら、法政大大学院で博士（政治学）を取得。現在は淑徳大教授。専門は社会保障論、社会福祉学。著書に「孤独死のリアル」（１４年、講談社）「在宅介護」（１５年、岩波書店）など。

育て 次世代の星　来月、大宮で第３回車いすソフト　　東京新聞　2017年８月６日

プロ野球の埼玉西武ライオンズが主催する、競技用車いすを利用したソフトボール大会「ライオンズカップ」が九月二、三の二日間、さいたま市大宮区の大宮第二公園多目的広場で行われる。一般社団法人「日本車椅子ソフトボール協会」推薦の強豪チームが競う本

大会のほか、参加者を広く募る「ジュニア大会」などもあり、八月十三日まで応募を受け付ける。　（加藤木信夫）

車いすソフトボールを体感する子どもたち＝昨年のライオンズカップから（埼玉西武ライオンズ提供）

ライオンズは同じ野球型スポーツである車いすソフトボールを支援し、野球界の発展につなげようと、二〇一三年に同協会のスペシャルサポーターに就任。一五年にはプロ野球球団としては初めて、車いすソフトボールのライオンズカップを開催した。

三回目の今年は、競技の発展に欠かせない「次世代育成」をテーマに掲げ、小学五年から満十八歳までを対象にした「ジュニア大会」と、競技歴二年未満の「ビギナークラス」を新設。複数のチームを編成して試合を行う。いずれも定員四十人（応募者多数の場合は抽選）。介助なしにプレーできれば、障害の有無や性別にかかわらず参加できる。参加費は税込み千五百円（保険代込み）。競技用車いすが貸し出されるが、子ども用ではないという。

他に、無料で当日参加できる「体験会」もある。競技用車いすの使い方説明を受け車いすに乗りながら「走る・投げる・打つ」を練習後、ミニゲームを実施予定。

応募フォームは、ライオンズのオフィシャルサイト（名称で検索）内にある。問い合わせは埼玉西武ライオンズインフォメーションセンター＝電０５７０（０１）１９５０＝へ。

＜車いすソフトボール＞　１０人制競技で、１６インチのソフトボールを使い、車いすを動かすためグラブを使わずに守備を行う。発祥地の米国ではジュニアや女子を対象にした大会もあり、車いす競技として広く浸透。現在は日本、米国、韓国などが中心になって普及活動を進め、将来的にはパラリンピック正式種目採用を目指している。

大村さんの功績たたえる碑が完成　病院開設の埼玉・北本市

共同通信　2017 年 8 月 5 日

完成した顕彰碑の前に立つ北里大の大村智特別栄誉教授＝5 日午前、埼玉県北本市

埼玉県北本市の総合病院「北里大学メディカルセンター」の開設に尽力し、2015 年にノーベル医学生理学賞を受賞した北里大の大村智特別栄誉教授（82）の功績をたたえる顕彰碑が同市に完成し、5 日、記念式典が開かれた。

市民らとともに除幕した大村さんは「5 千人余りの市民の皆さんが募金をしてくださったと聞き、身に余る光栄。今後も努力していきたい」とあいさつした。

碑は北本市文化センター前に建立され、赤御影石製で高さ約 2 メートル、幅約 80 センチ。大村さんの上半身像や、栄誉をたたえる碑文が刻まれている。市民有志が寄付を集めて作製した。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も